

青年海外協力隊員の松井さんがサモアへ

12月13日、青年海外協力隊員としてサモアへ派遣が決まった松井恵さんが市長を表敬訪問しました。2年の派遣を前に「交流を深め日本文化も伝えたい」と抱負を語りました。



そばうちや餅つきで地域の交流深める

12月19日、小林元気クラブの元気まつりが西小林地区体育館で行われました。小学生から高齢者まで約100人が参加。そばうち体験や餅つきなどで地域の交流を深めました。



三松小ハンド部 九州大会へ

12月15日、ハンドボールの九州大会へ出場する三松小ハンドボール部が市長を表敬訪問しました。木切倉和哉主将は「まずは初戦突破を目標に頑張ります」と元気に意気込みを話しました。



消防署員がボランティア清掃

12月8日、9日、15日と16日、西諸広域行政事務組合の消防署員が、小林駅周辺や国道沿いで清掃活動を行いました。署員は勤務終了後に活動。有村慎祐さんは「地域に貢献する活動ができれば」と話していました。



高校体育振興へ区長会が寄付

12月17日、小林市区長会が高校体育振興にと市内の高校へ寄付をしました。小峰實義会長は「区加入世帯の寄付の協力によるもの。全国大会出場や強化育成を地元から力強く応援したい」と話していました。



宮崎県内には約5,600もの遺跡があるそうです。小林市内でも古いものでは約2万5,000年前の遺跡も見つかっています。

小林の埋もれた歴史が甦る遺跡講演会を開催

12月16日、小林市周辺の遺跡を紹介する講演会が中央公民館で開催されました。県の埋蔵文化財センターの職員が講師となり、同センターの業務や、市内遺跡とそこから出土した遺物を紹介。約50人が参加し、講師の話に興味を持って聞き入っていました。



園村団長が「うちのプラスとコーラスの相性はばっちり」と語った2団体による合唱。開場からは、大きな拍手が贈られました。

吹奏楽とコーラスの競演 クリスマスの夜を優美に演出

12月25日、小林女声コーラスと小林市民吹奏楽団（助演：小林高等学校吹奏楽部）による、X'masコンサートが開催されました。クリスマス時期の開催、2団体の競演はともに初めて。園村正晴団長は「定期演奏会は口蹄疫で中止となったが、元気を発信するために開催した」と話しました。

トランポリンって楽しい 県民スポーツ祭開催

12月23日、県民総合スポーツ祭トランポリン競技大会が、市民体育館で開催されました。個人ジャンプ競技46人、チーム演技に3チーム9人が参加。川中幸明大会委員長は「少しずつ競技人口が増えてきているので、この大会でさらに普及につなげていきたい」と話しました。



「トランポリンは気軽に出来るスポーツ。市トランポリン協会の練習場で体験できるので、挑戦してほしい」と川中会長。

阪神タイガースからドラフト一巡目で指名 榎田大樹投手（小林西高卒）が表敬訪問 活躍を誓う

12月28日、小林西高校を卒業し、阪神タイガースから投手としてドラフト1巡目で指名され、入団する榎田大樹投手が市長を表敬訪問しました。榎田投手は母校の小林西高校を訪問後に両親や母校の恩師とともに来庁。市長から「一軍で10勝以上して、新人王を獲得して欲しい。活躍は市民の元気になる」と激励を受けました。榎田投手は「プロに入ってからが勝負。頑張りたい」と力強く決意を語りました。

榎田投手は鹿児島県生まれの24歳。小林西高校を卒業後、福岡大学に進学しました。大学リーグでは3度の優勝を経験。昨年は社会人チームの東京ガスに入団し、1年目ながら都市対抗野球などで大活躍しました。阪神タイガースでは即戦力の左腕として期待されています。



【写真上・左下】市長に激励を受ける榎田投手。【写真右下】多くのマスコミも取材に訪れるなど、活躍が期待されています。



協定書を交わす肥後市長【写真左】と入佐会長【写真右】。肥後市長は「万一の災害時には有効に活用したい」とあいさつしました。

災害時の連携を確認 十五日会と協定調印

12月15日、災害時の応急対策について市内12の企業で構成するボランティア団体、十五日会と市で協定を締結しました。協定内容は、災害時の被害情報の収集や、応急復旧、緊急を要する建築資材の調達など。同会の入佐市男会長は「積極的にお手伝いできれば」と話していました。